

森さん 古巣で研究紹介

ノーベル賞候補 岐阜薬科大で講義

京都大の森和俊特別教授が22日、古巣の岐阜薬科大(岐阜市)で3年生向けの講義「先端医療学」に登壇した。生き物の細胞内で異常なタンパク質が増えないようにする「小胞体ストレ

ス応答」が、がん治療などに生かされていることを紹介した。

森特別教授は、小胞体ストレス応答の仕組みを解明したことで知られ、ノーベル生理学・医学賞の有力候



小胞体ストレス応答について語る森特別教授＝岐阜市の岐阜薬科大三田洞キャンパスで

補。細胞内の「小胞体」で作られるさまざまなタンパク質のうち、構造が異常な「不良品」がたまると、細胞が死んで糖尿病など多くの病気の一因になる。

小胞体ストレス応答は、その不良品を壊して小胞体を正常に戻す機能。森特別教授はメカニズムの解明にあたり、酵母の細胞への着目が奏功したことなどを語った。

米国では小胞体ストレス応答を阻害することで、がん細胞を増殖させない治療法が実用化されつつあることも紹介。「基礎研究は大事。多くの分野を巻き込み、新たな治療法につながる」と力を込めた。

(川添智史)